議　事　録（報告書）

会　議　名 (審議会等名)		令和７年度 社会教育委員会議
事　務　局 (担　当　課)		伊万里市教育委員会　生涯学習課
開　催　日　時		令和７年１０月３０（木）１３時３０分～１５時１０分
開　催　場　所		生涯学習センター　第３学習室
議　　題		（１）各課からの重点事業（施策）の説明 （２）「令和７年度　伊万里市の教育」について
出 席 者	委　　員	中嶋 八重廣、池田 豊子、北原　成之、黒川 敦子、 尾形　崇、西　靖幸、中尾　克也、松永　真治
	市	松本教育長、松本教育部長、松尾教育副部長（スポーツ課長）、 河上教育総務課長、髙木学校教育課長、伴生涯学習課長、 鴻上市民図書館統括管理者、芦原生涯学習副課長（人権・同和教育係長）、 﨑元生涯学習係長、船井文化財係副主幹、大塚、大草
欠 席 者		中尾　聡彦、松園 英子
傍聴の可否		（可）・一部可・不可　　傍聴者数　　０人
傍聴不可・一部可の場合は、その理由		
会　議　次　第		１　開会 ２　委員長のあいさつ ３　教育長のあいさつ ４　社会教育委員の役割等の説明 ５　議題 （１）各課から重点事業（施策）の説明 （２）「令和７年度　伊万里市の教育」について （３）その他 ６　閉会
会　議　結　果		１　開会（進行：生涯学習係長） ２　委員長のあいさつ（中嶋委員長） みなさん、こんにちは、朝晩非常に寒かったですが、昼間は、ぽかぽかで何を着ようかと悩む時期ですが、体調管理は十分に気を付けてくだ

	さい。この会議は年に１回しかありませんので、各委員の皆さんは、せっかくの機会ですので、何か一人一言でもお話していただけたらと思います。よろしくお願いします。 ３　教育長のあいさつ（松本教育長） 皆さまお忙しいなかに、社会教育委員会にご出席いただきありがとうございます。日頃より、皆さまはお忙しい方ばかりで、その中で本市の社会教育の振興にご尽力をいただいておりますことに対しまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。 教育委員会では、本市における教育の目標を「学び　育ち　つなぐ」を軸として、市民一人ひとりが生涯を通じて学び続け、健やかに育ち、地域へとつながる活動を推進しています。 とくに「きらきら子ども」「ほかほか家庭」「いきいき地域」を核とする施策を充実させるために、市民のニーズに応じた豊かな学習、文化、スポーツ活動等に取り組めるよう、学校・地域・家庭・行政が互いに連携を深め、質の高いサービスや多様な活動の場の提供に努めております。 今後とも、誰もが参加しやすい学習機会を確保し、地域社会の絆を深めていくため、皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。 このあと、教育委員会各課から重点事業について説明させていただきます。先程、委員長が話しました、年に１回の会議ですので、ぜひ、７年度後期、また次年度に向けて、いろんなお声を聞かせていただき、教育委員会の事業に反映するために、ご忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いします。 ４　社会教育委員の役割等の説明（生涯学習係長） 資料１、２ページ（社会教育法の抜粋、市社会教育委員条例）をもって説明 ５　議題 （１）各課から重点事業（施策）の説明 教育総務課：資料４ページをもって説明（河上課長） 教育環境の整備、子育て支援の充実について 学校教育課：資料５ページをもって説明（髙木課長） きらきら伊万里っ子について 生涯学習課：資料６～１２ページをもって説明（伴課長） 生涯学習の推進、青少年の健全育成の推進、文化芸術の振興、人権教育と啓発の推進、文化財の保護、歴史民俗資料館、陶器商家資料館、伊万里・鍋島ギャラリーについて スポーツ課：資料１３～１７ページをもって説明（松尾副部長） 国見台公園総合整備について 市民図書館：資料１８ページをもって説明（鴻上統括管理者）

	図書館の魅力度アップ、開館３０周年記念事業の実施、施設整備の機能強化と長寿命化、市内全域サービスの充実、読書による家庭教育力の向上 《質疑応答》 （西委員）⇒　スポーツ課 　国見台公園総合整備の設計はどちらかの業者か。 ⇒業者については勘弁して欲しい。今から競技団体と話し合いをして、設計上問題がないか洗い出しをしている。（副部長） （松永委員長）⇒　学校教育課 　不登校児童生徒の問題についてお尋ねしたい。伊万里市の義務教育のなかで、不登校児童の現状、課題等も含めて、どのような状況であるのかと思って心配している。低学年が多いとニュース報道もあるので、伊万里市ではどのような状況なのかお尋ねする。 ⇒正確な数はお伝えできないが、市全体としては増加傾向にある。低学年ということではないが、新たに不登校の児童生徒は出てきている。「伊万里市の教育」の９ページに、これまでは教育支援センターせいらがあり、市内伊万里中、啓成中、南波多郷学館に校内教育支援センターを配置し、支援員を置いて、不登校の児童生徒の対話を進めている。校内教育支援センターができたことで、不定期であるが支援員と会話して、それが登校に繋がればいいと話はしている。不登校については、しっかり学校と共通認識を持っており、できるだけ対応に努めること、数が増えることがないよう対応していきたい。（課長） （中嶋委員長）⇒学校教育課 　不登校の数にについて、せいらの子は入ってないのか。 ⇒不登校の数に入っている。（課長） （池田副委員長） 　相談体制として生涯学習課に青少年相談室がある。今年、不登校の子どもさんの相談が何件かあっている。今年はオレンジ色のチラシで全世帯配布してもらっている。それを見たおばあ様かおじい様が孫について来所されたりもしている。子どもたちには小さなカードが小学校、中学校、高校までいっている。全世帯配布に広報伊万里と一緒に配布してもらって良かったと思う。チラシを見てからの電話があった。40 代の子をもつ母、小学生、中学生の不登校、高校生も初めて相談があった。小学生、中学生だけに関わらず、青年期を過ぎた 40 代とか受け皿とかになるのかなとも思う。 　せいら教室には 40 人ぐらい在籍しているが、休み時間になると元気な声を聞く子もができるので、この子達は居場所があっていいなと思う。せいらの先生たちも非常に熱心されている。引きこもって出てくることができないことが問題である。親御さんの支援をすることも必要である。

	（黒川委員）⇒学校教育課 　先程説明がありました、伊万里中、啓成中、南波多郷学館、３校決められた経緯、学校に行けない子が学校の中につくって有効的であるのか。市内１８校あり、せいらには各方面から来るが、３校は、わりかし中心部にあり、不登校の子はいろんな学校がいるので、そこまでの交通手段とかを検討されて上で選定されたのか ⇒選定について、県教育委員会からも支援、補助が受けられるということがある。選定するには、使用する教室が必要で、まず空き教室がある学校が大前提になる。伊万里中、啓成中、南波多郷学館については、空き教室があり、不登校の生徒が相当数いたことで設置することになった。不登校の子が少しでも学校に目を向けることができれば、県からの補助にもよるが、設置については前向きに考えていきたい。（課長） ⇒不登校対策について国も力を入れている。もともと伊万里中学校には「むくの木」という校内の不登校児教室があり、学校に来るけど教室には行けない子は、ほかの学校では、保健室であったり、校長室であったり、ほかの部屋で過ごしている。先生たちは役割仕事があるので、学校に来るけど教室に行けない子を、その学校のなかでの支援するために、校内教育支援センターということになる。伊万里は多数先生がいるので、誰かが代わり代わりにお世話、指導ができるが、そういう先生たちが、どこの学校でもいるわけではない。校内教育支援センターでは支援することができる先生がいるが、部屋が必要であり空き部屋がなかなかないため、部屋の確保ができれば増やしていきたい。（教育長） （西委員）⇒学校教育課 　不登校教室の支援員さんの資格は？ 　リモート学習について、最低限習得してもらいたい、学力向上するために、学校へ行くものであるが、きめ細かい支援、選択肢が増えてきている。健康、適応障害、メンタル的なものがあった場合、特別支援のクラスに行ってもらい、そこに配置する職員を加配することは、いろいろ本当に大変だと思うが、何か突破口がないのかなと思う。 ⇒支援員は３名配置しているが、２名が教員免許をもっている。リモート学習は、どの学校でもその対応を前向きに考えている。一人１台タブレットがあり、持ち帰らせて学校の授業の様子を見られるような工夫を多くの学校が取り組んでいる。児童生徒がそれを見るかどうか、繋いでいるか、気になるところであるが、学校としては、リモートを教室と繋げて対応している。（課長） （北原委員） 　不登校の子たちの「登校しぶり」ですが、うちは部屋がないので、保護者には伝えて対応してもらう。オンライン配信をしたり、課題を送ったり、タブレットを与えて、1 週間に 1 回は接続しないと動かなくなるので、1 週間に 1 回は学校を登校させるパターンはある。生存確認が難しい子もいるので、そういうことを意識しながらやっている。最近感じることは、前期課程、小学校のほうでしぶりが出てきたと感じる。先日、ある保護者から出席日数について質問があった。出席してないので、高校進学が不利になると思っている。例えば厳木、太良は逆に 30 日以上

	の欠席がないと受験資格がないと説明した。最近のニュースで入試の調査書に出席欄を削除する県が関東周辺で増えてきている。おそらく、こっちのほうもそうなってくると思う。そこには、性別も書かない配慮がされている。いろんなところで、いろんな動きがある。配慮を要する子どもたちに寄り添って、何とかしてあげようという取り組みを意識していかなければいけない。 （池田副委員長） なかなかリモートで学習することは、意欲がその子どもにあるのか。タブレットあっても、本当に勉強にしたい子でないと与えただけでは、たぶん見ない。学びたいと思えば、スマホでもなんでも載っている。私もどうすればいいかわからないが、お知恵を拝借したい。タブレットはいいとは思う。 （中嶋委員長） 便利になるが、使い方だと思う。放課後児童クラブの支援員として時々行っているが、子どもはスマホを買ってもらった、１０時までしか使えないとか、ユーチューブの話をしている。歯止めが必要である。 話は変わるが、市の方で子ども、若者会議が昨日おとどい、第１回の会議があった。１５歳から概ね４０歳、引きこもり、ニート対策会議であった。根本的に引きこもり、ニートなった年代をみますと、引きこもりになった時期は１５歳が１番多かった。 （尾形委員） ２５歳から３０歳まで２番手に多かった。ニートになってしまったら、平均的に７年間ぐらい引きこもってしまう。 （中嶋委員長） 引きこもりになる原因は小さいときにある。社会人になったら、何も言われない。不登校、引きこもりやニートになるデータが出ており、解決するための会議があった。 （中嶋委員長）⇒生涯学習課 この間、腰岳に登った。黒曜石は勝手に持ち帰ったらいけないのか。⇒腰岳を歩くと何処にでも黒曜石はある。「持って帰っていいのか」と外部の方から時々電話があるが、私たちの答えは、「まずそこは私有地ですか、個人の土地で、勝手に入ると揉めますよね」と言う。市が取っていいとかの判断はできないので、「取らないほうがいいですよね」というお話はしている。単純に原石で腰岳から出てきたもので何も加工されていないものあれば、普通に河原に落ちている河原の石と変わらないので、持って帰って何の罪になるのかとなる。川は国交省ものであり、山は個人の所有になるのであまり持ち帰らないで欲しい。文化財の価値として、石器に加工したものは埋蔵文化財に該当しますので、持ち帰らないで欲しい。勝手に持ち帰ることはご遠慮願いたい。困るのは持ち出して、周辺に捨てたとき、新たな遺跡であると、偽の遺跡ができることがある。黒曜石の調査をしている研究者にお渡しするときは、「活用す

	ることはいいが、捨てる時は必ず廃棄物として捨ててください」とお願いをしている。（文化財係副主幹） （尾形委員）⇒学校教育課 昨日、県 PTA 会議の中で、県教育委員会との連携会議を佐賀市でしてきた。そこで県教育委員会の勧めとしてチーム担任制の導入を試験的に、モデル校として伊万里市では伊万里小が導入している。今までは、小学校であれば一人の先生が担任の先生であったが、チーム担任制は３人ぐらいの先生でローテーションしながら、１つのクラスをみていく取組みをされている。今年度からで半年しか経ってないが、実施されている伊万里小のチーム担任制の変化、どういう感じなのか、もしご存じであれば教えていただきたい。 ⇒伊万里小のチーム担任制導入で、県からの加配、教職員１名プラスがあって、伊万里小３年生、３クラスあり、通常は３人であるが、４人で３クラスをみている。担任は固定せず、ひと月交代４人でローテーションしている。ひと月で変わる縛りはないが、その学校の実情にあわせて、伊万里小においてはひと月で交代している。教科指導は、中学校のように教科担任制を取り入れており、算数は３クラス、同じ先生が実施、国語は別の先生、小学校の担任はたくさんの教科を持って指導する必要があるが、その点からすると、働き方改革である。アンケートを取っており、子ども、教員も概ね良い、子どもたちは相談しやすいとアンケートの中にある。先生もいろんな子どもをみることができる。先生の持ち時間数が減っている。今のところは良い方向で進んでいると報告を聞いている。中学校では、複数担任２人でクラスの取り組みを始めている学校もある。東陵学園もこのスタイルをとられている。（課長） （池田副委員長） 東陵学園のお話を少し聞きたい。 ⇒中学校は２人の教員で担任する。担任と副担任ではなくて担任２人で体制をとっている。６年生だけは２クラスあるので、チーム担任制ということで、６年生は教科担任制向けて準備をしている。デメリットは、教員同士の仲がいいかどうか。今年やってみてわかったが、同性同士を組ませない方がいい、同性でも、年齢層を離さないと上手くいかないことがわかった。（北原委員） （尾形委員）⇒学校教育課 教育委員会の方で言われて、ベテランの先生対して、新任先生をつけるとか、新任の教育に合わせて、やり方を聞いて、ちょっといいなあと思ったのが、PTA のなかで、各学校でもスマホを発端とした SNS 問題がある。市 PTA としても「SNS の子ども間のトラブルは保護者の責任です」と伝えていこうと思う。どうしても学校に行っている子どもの仲介として先生が関わるしかないが、子どもの不登校の話もあったが、学校の先生たちのストレス対して、その先生がその内容を抱え込んでしまうことがある。チーム担任制になれば、その場面で３人、４人で共有できて、すごくいいと思う。関連して、不登校の数は増加傾向にあるが、教員たちの休職の状況はどうか。

	⇒特別な支援が必要な子が増加傾向であるし、配慮が必要な子が増加している。大きな流れの中でいろんな子を育てていくことの理念は大切にしていきたいが、実際、保護者対応や児童生徒対応が増えている。働き方改革が叫ばれて、学校教育課に毎月先生の勤務時間数が出てくるが、極端に減ったなあということはない。いろんなところで業務削減とか、取り組んでいるが、いろんな対応がある。教職員のストレスを図るストレスチェックはあるが、それを、学校教育課が全部を見てる訳でもないし、何とも言い難いが、病気休暇、休職というような先生方は、まったくいないとは言えず、ポツポツ出てきている。補助できる先生が、教員の倍率が低く、代わりに入っていただく先生が見つからないことが、現状である。学校現場は少ない人数で対応している。（課長） （中嶋委員長） 学校先生は大変だと思う。 （教育長） いま、ずっとご意見を伺っていて、ほとんど学校教育に関わることだったので、最初に社会教育委員の説明がありましたが、社会教育に関し教育委員会に助言することになっている。残り３０分は、伊万里市の社会教育がどうあるべきか、ぜひご意見いただきたい。 （池田副委員長）⇒図書館 図書館の取組みについて非常に感激している。徳永義昭さんのカンパネラ講演は聞けなかったが、ピアノの演奏を待っていて、とても素敵だった。公民館研究会でも聞いたが、伊万里市にも来るなら聞きたいなと思って、２回聞くことができた。年配の方も結構多かった。こういった取り組みはいいなと思う。ありがとうございました。また続けてほしい。⇒開館３０周年、伊万里に根差した市民図書館である。本当に利用している方は、図書館フレンズをはじめ、図書館を愛してくださる方はたくさんいるが、新しく来られた方、以外と伊万里図書館を利用されていない方、利用登録をしてない方、少なからず、いることを私たちは課題として、新しい方にも認知していただいて、ぜひ利用のきっかけをつくろうと、今回のような講座等を回数多く開催している。イベントを打ち上げ花火で終わるのでなく、これをきっかけとし、図書館利用、読書週間を広がっていくことを目指していく。（統括管理者） （池田副委員長） ブックスタートも良かった。市民病院の研修であった。赤ん坊を３か月、６か月にスタッフさんが丁寧に説明された。生涯学習に繋がる。 （尾形委員） 読書に関しては、まったく読んでなかった。最近読書しようと思った。伊万里の歴史に興味を持って読むと面白い。戦国時代が好きで、名護屋城の本をについて読んでいる。あそこの地域に行ってみると名だたる武将の名がついた交差点とか、大河ドラマに出るみたいなところがあるので、子どもが興味を持ってやれればいいと思う。城山公園でも石棺ある。

	山城があったことを子どもたちに知らせていけたら、城山公園の活用にしても変わっていくのかなと思う。 （中尾委員）⇒生涯学習課 ２点ほど質問をする。１点目は人権に関することで、人権問題についてすべての法の問題に関わってくる大事な啓発活動の１つだと思う。在籍していたころ大人向けの啓発活動は上手くいった方だと思うが、児童生徒向けの人権啓発の周知についてまだまだ物足りなかったかな、このあたりを充実してくれたらいいと思う。２点目は、伊万里市は世界に誇れるもの、鍋島と腰岳の黒曜石の動きについて、すごいなと全世界に誇れる文化であるので、せっかくこのような事業を進めているので、まとまり次第、児童生徒へフィードバックしていただけたら、子どもたちは伊万里の誇りということで、アイデンティティの深まり繋がれば、人口減にも多少なりとも歯止めとなるのではないか。 ⇒歴史のことに関して、学校関係での文化財関係の話について、学校側から、常々お願いしていることだが、私たちがよく出るのは、各コミュニティセンターからの出前講座が多いときで、年間、職員３人担当いるが、一人十数回出前講座している。小学生については学校からのあまり申し出がないのが実情で、最近あったのは、大川内小から話をしてくれとあり、２年続けて１回目は焼き物の話、もう１回目は、大川内小のすぐそばに山城があり、小学校５，６年生が登ることができる。５年生を連れて上がって、戦ごっこをして盛り上がり、興味を示してくれた。学校から要請があれば、小学生に合う話をする。PTA の役員会で PR してくれたらありがたい。伊万里が誇る文化財、黒曜石、焼き物、両方あるが、小学生に向けては非常難しいが、大人の方に知ってもらうために、シンポジウムや展示とか歴史民俗資料館でやっている。興味がある方は来てもらえるが、興味ない方はどうやった形で取り込むかが１つの課題である。地元の文化財は地元で守ることが原理原則である。出前講座などで地域のコミュニティセンターで興味があることを中心にお話する。市指定文化財は市役所が守ってくれると思われるが人がいるが、そうではないので、そういう話もしている。継続的に調査を進めており、その成果を出していきたい。伊万里の広報紙に毎月、伊万里市の文化財としてシリーズものとして載せている。そちらのほうも見て興味を持ってもらえたらと思う。（文化財係副主幹） ⇒もう一つの子どもたちに対する人権教育に推進、現状と今後の伸びしろについて話をさせてほしい。子どもたちの人権問題の推進について、人権教育の分野で、社会教育と学校教育は車の両輪例えられるように、非常に密接な関係になければいけない。人生を通じた切れ間のない人権教育が本質だと受け止めている。そういう視点で、社会教育のなかにも、子どもたちもいるわけで、子どもたちに対して人権教育をどんどん進めていかなければいけないと思っている。近年の状況は、特徴的な点は、学校や放課後児童クラブから「子どもたちに社会教育視点から人権教育の話をしていただきたい、社会教育からアプローチをしてほしい」とオファーが非常に増えてきている。これまでは、PTA、育友会の皆さんを対象に授業参観の後に研修の時間を作りたいと、そういう局面が専らであったが、そういう時間を利用して子どもたちも一緒に聞いてもらいた

	いケースが増えている。これまで蒔いてきた社会教育と学校教育の連携による種が新たな緑を少しずつ芽吹いてきたと感じている。指導員も一緒に子どもの目線で人権を語れる、そういうスキルを身につけようと、一丸になって取り組んでいる。（課長） （黒川委員） 伊万里市子ども会は、今年、第５９回子ども話し方大会を１１月３日に開催する。その中で、一人の中学生が「弟が教えてくれた人権」という演題で中身は聞いてみないとわからないが、子どもたち中にも、そうやって家族とかでそういうことを学ぶ機会がある。大きな行事で冬は子ども話し方大会、夏はスポーツ大会がある。いかんせん、子どもの少子化が進んでいて、昨年度の子ども会は小中学生の６１％の加入率、今年は５３％まで落ち込んでいる。行事をするにしても、なかなか反応がない。うちのやり方がまずいのかなと思っている。事務局を生涯学習課に置いて、いろいろアドバイスを頂いているが、もう一歩進んでお願いしたいことがあり、うちの募集をかける場合、市のホームページを利用することは可能かどうか。イベントするときの PR をインスタ、SNS とか活用しても集まらない。今の家庭での優先順位は、昔のなかでは学校、家庭、部活、遊びだったが、今は、子どもがいて、どうかしたら土曜日とかに試合があるので、授業参観を休ませてくださいと、社会体育に移行している家庭が多い。社会教育団体である子ども会については二の次になっているのが現状である。毎年、新しい各町の会長さんが会議に参加するが、昔は２、３年やっていたが、今は単年の方が多くて継続やっていただける人がいない。市からのご協力いただいているが、もう一歩進んだところで、PR するときに市のお力をお借りすることができるかお尋ねしたい。 ⇒持ち帰って検討する（教育長） （北原委員） 昨日、韓国のモッコ女子中学校の子どもたち、２、３年生が交流をしに来た。うちは１年生から９年生まで全員交流をさせて、校長先生も来るということで、大川内山のちょっとしたお土産を渡して、ものすごく喜ばれ、よく知っていた。そしたら今から大川内に行く、日本の研修プログラムということで大川内に行って、陶山神社、嬉野に泊まる。その時に、まわりに９年生がいたので聞いたら、大川内山に行ったことがない子がたくさんいて、親御さんたちは、１回は大川内山へ連れっているのかなと思っていた。学校がバス旅行で社会見学を組むときは、青果市場、給食センターは組むが、歴史的なところまでは入れてなかった。大川内山もいいところであるし、連れって行ってあげたいと思うが、５年生で宿泊訓練を黒髪に行っているが、バス代が非常に高騰して、２日間わたって借りるので黒髪に行くにも７万円ぐらいかかる。１日で佐世保に行って帰ってくるほうが、よっぽど安くなる。来年度は宿泊訓練を辞めて、バスを使ってちょっとどこかに行く。例えば SDG s 勉強させるとか、うちは人権学習を絡めて行っている。バスがあったら、非常にいろんなところに行かせてあげることができる。市民センターである乳児とふれあいとかになると、うちの学校から行かせると、ものすごくお金が

かかる。町の学校と比べると不利である。周辺部の学校には是非、予算をいただくとか。来てもらうには、いっぱい来てもらっており、今月は琴教室、手話教室、茶道教室、認知症サポート教室、租税教室、性教育、毎日あっている。あまりにも来てもらっているので、行かせる体験させたい、見ることも、周辺部の学校は非常にキツイところが現状である。

（池田副委員長）
　地域のまちづくり予算とかは？黒川は使っている。
⇒いろいろあって松浦にあるけど、使いにくいとかがある。（北原委員）

（池田副委員長）
　国見台の総合公園ありがとうございました。
　おかげで、駅伝は成績が良い。

（中嶋委員長）
　高校駅伝の女子で、佐賀清和学園が県で優勝したが、２人が伊万里市出身、立花と大坪で、国見台で毎日練習していた。国見台で活発に練習している子がいるし、社会人も毎月、月例記録会をしている。久々５千メートルの記録会をして１４分２０秒がでた。国見台は記録が出やすいと評判であるので、力を入れていただいて、環境整備をお願いしたい。

（池田副委員長）
　去年から国スポがあり、きれいにしてもらって他県からも、いっぱい来られている。

（中嶋委員長）
　使い勝手いい、記録がでやすい、練習もしやすい。いろんな合宿、大学、高校生が全国からやって来ている。

（尾形委員）
　私、伊万里市のバスケット協会の理事をしており、小学生のチームを立花小で週３日、土曜日に国見台で指導している。体育館が新しくなることを子どもに言ったら、すごく楽しみと言っており、今いる子たちは卒業していると思うが、いま、バスケットボールのメンバーが増えてきていて、今度、１年生が入ってきており、完成したときに、みんなで練習できるようになる。また素晴らしい設計で佐賀アリーナような素晴らしい体育館だと思う。バスケットバール協会の吉武先生は、バスケットはフルコートでお願いしなくてはと熱弁されており、楽しみにしている。計画どおりの実行をお願いしたい。

（２）伊万里市の教育　　質疑なし

	（３）その他 （黒川委員） 　駅前の「よっとこ」について、管轄が違うと思うが、いろいろ問題があって、夜パトロールをしていて、見るからに学生じゃない、社会人にしては若すぎる子がいる。警察が巡回コースになっている。唯一、電車を待つ時間帯の場所であるが、あそこを管理する課は？ ⇒商工振興課が担当で、いろいろ問題があったときは対応して、基本的に管理委託していて、そこの業者が対応している。直近どういう取り扱いになっているかわからないが、一時期は、小学生は保護者が同伴でないと使えない制限があった事実があるが、今も継続されているか聞いてない。（部長） （黒川委員） 　今の子どもたちは、だぶん、ガラス張りになっているのは、目が行き届くようにガラス張りになっているが、今の子は見られてる感覚がない。人から見られるから辞めようとか、せっかくいい場所に作られているのに、有効活用できないかなと、いつも通って思うが。 ⇒ある意味、残念に思っている部分で、本当に使いたい子が入れないことが一時期があった。担当課が、警察と連携を取りながら対応していたと聞いていた。最近、実情はどうなのか。一時期よりは良くなっているのか。通りかかるたびに、大分いいのかなと思う。（部長） （中嶋委員長） 　先程、お話したが、子ども、若者会議のなかで、いろんな、伊万里にこういうものがあった方が良い、不足しているものがあると、たくさん意見が出ていましたので、あれば担当の方へ尋ねてほしい。 ９　閉会（生涯学習係長）